

教科：地理歴史

科目：世界史探究

単位数：3 単位

対象学年組：第 2 学年 2・4 組

使用教科書：（山川出版社 世界史探究）

教科 地理歴史

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

の目標：

世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

の目標：

科目 科目 世界史探究

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	<p>第1章 文明の成立と古代文明の特質 自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明の誕生の基礎について理解する。 おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>第2章 中央ユラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。漢の支配体制の変遷を理解する。統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。ウラシアと東アジア世界</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとの仏教の発展について理解する。クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>○指導事項 第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>○教材 ・教科書・資料集・プリント等</p> <p>○単元ごとに行う評価活動 ・テスト、グループワークの発表等</p>	<p>【知識及び技能】 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。東アジア各地の風土と、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追ってみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追ってみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追ってみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追ってみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	39 (内査2時間)

